

審議会等の会議の記録

会議の名称	伊勢崎市赤堀歴史民俗資料館運営協議会
開催日時	令和 5 年 12 月 21 日 (木) 10時 00分 ~ 11時 30分
開催場所	赤堀歴史民俗資料館研修室
出席者氏名	(委員) 村田会長、矢島副会長、萩原委員、塩崎委員、前澤委員、三澤委員、清水委員 (教育委員会) 新井文化財保護課長、小島課長補佐、出浦課長補佐、早川課長補佐、栗原係長、川道主幹、板垣主任
傍聴人数	0人
会議の議題	(1) 赤堀歴史民俗資料館長寿命化計画について
会議資料の内容	(1) 赤堀歴史民俗資料館長寿命化計画について
会議における議事の経過及び発言の要旨	<p>(1) 開会 (2) 会長挨拶 (3) 協議事項 赤堀歴史民俗資料館長寿命化計画について事務局から赤堀歴史民俗資料館長寿命化計画について提示された。</p> <p>【意見の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料館建設時の歴史民俗資料館建設補助金の縛りがあるか県に確認すること。 博物館類似施設とは何か。 →博物館法の規制がない施設で、当館は博物館類似施設。登録博物館や博物館相当施設の場合適用される文化庁の補助金や特別地方交付税を当館では適用されない。 博物館類似施設であることは重要文化財の借用時に影響がある。登録要件を県に確認すること。 資料館の改修は既存の魅力を残してリニューアルする難しさがあり、改修後も常に新鮮さを継続する取り組み案はあるか。 →企画展終了後に常設展へ内容を組むサイクルを構築して常に新しい常設展を目指す。 現在、地域にスポットを当てた企画を行い、集客に繋げている。 基本構想や計画はどのようなワーキンググループで

	<p>作っていくのか。改修後40年の仕組みづくりとなる重要な計画となる。</p> <p>→計画の第1段階として運営協議会で委員の意見を伺い、今後収蔵庫不足や人員配置の課題とともに検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none">・まずは、文化財保存活用地域計画を策定することが必要と考える。その上で構想づくりの方向性として、長寿命化を図りながら、地元への文化財の価値を周知するために東京国立博物館等で所蔵する重要文化財の借用に対応した施設（登録博物館）とすることを念頭に入れていきたい。学芸員の発令、配置が重要なポイントになるとともに、登録博物館になると職員の人財確保になるのではないかな。・リピーターが増えている現状を継続することが必要で、ソフト面の充実を図ってほしい。・寄贈資料が増えている現状で、資料の整備や収蔵庫の対応が課題である。 <p>(4) その他 (5) 閉会</p>
--	---